

---

《研究ノート》

MMPIの身体関連尺度についての覚え書き

井 手 正 吾

---

I はじめに

ロールシャッハ・テストの身体像境界スコアの研究 (Fisher & Cleveland, 1958; 八尋・井手・大塚・篠塚, 1983) などみてもわかるように, 身体への感覚や態度, とらわれ等をとらえていくことは, パーソナリティの理解や精神的病理の診断や治療にとっても重要である。

パーソナリティの理解や診断・治療に役立つ情報を与えてくれるMMPIには, 基礎尺度に加えて, 数多くの追加尺度等があり (Graham, 1977; Greene, 1980; 等々), パーソナリティや心理的特性の様々な側面をとらえることができる検査である。MMPIにも, 症状や感覚を含めた身体に直接的, あるいは間接的に関連する尺度は数多い。精神疾患, 心理的な障害において, ヒステリーや統合失調症をはじめとして, さまざまな身体症状を伴うし, 精神的・心理的な面と身体的な面との結びつきは強く, 切りはなせないところもあり, 当然なところであろう。

身体というひとつの観点からMMPIをとらえていくことは, MMPIの臨床的活用や健常者のパーソナリティ理解, またパーソナリティや心理的特性についての基礎研究にもつながるものであろう。そこで, 本報告は, 現在日本で利用できるMMPIの尺度で, 直接的に身体に関連する尺度 (以下, 身体関連尺度とも表記) を取り上げた。直接的に身体に関連ある10の尺度を, 尺度構成, 他の尺度との関連などを含めて整理しまとめ, 今後の臨床的活用や研究のための基礎資料としたい。

II 身体に直接関連するMMPIの尺度

現在日本で利用できるMMPIの尺度等は100以上ある (井手, 2018; 村上・村上, 2009)。身体に直接関連する尺度として, なによりも, 臨床尺度の第1 (心気症) 尺度, 第3 (ヒステリー) 尺度がしられている。追加尺度としては, 代表的な特殊尺度のLb (腰痛) 尺度があげられる。

Wiggins内容尺度には、ORG (器質性) 尺度とHEA (不健康) 尺度がある。トライアン・スタイン・チュウのクラスター尺度 (TSCと略) にはB (身体) 尺度がある。また、臨床尺度の下位尺度には、D3 (身体的不調) 尺度、Hy4 (身体愁訴) 尺度、Sc3 (奇妙な感覚経験) 尺度、Si6 (身体懸念) 尺度の4つがあげられる。現在、MMPIで日本で利用できる尺度として、以上10の尺度が、直接的に身体に関連する尺度として取り上げることができる。この10の尺度について順次、項目構成や基礎尺度との関連なども含めてまとめてみていく。

なお、MMPIは基礎尺度においても構成項目で重複しているものが少なくないが、表1に身体関連尺度の間での重複項目の実数と比率をまとめておく。表2に10の身体関連尺度と基礎尺度との相関を、さらに表3に身体関連尺度間の相関を示す。なお、相関のデータは新日本版の標準化集団のもので、値はPearsonの相関係数である。

## 基礎尺度

### ・第1 (Hs) 尺度 (心気症) Hypochondriasis scale

第1尺度 (Hs尺度) は、33項目から構成され、22項目がF (あてはまらない) 回答で採点される。周知の通り、心気症患者をもとに経験的手法によって作られた尺度である。経験的手法で作成された尺度としては、比較的わかりやすい内容の項目 (明瞭項目) で構成されている。身体機能の全般的な不調やさまざまな身体部位の症状 (頭痛、循環器系、消化器系)、身体的活動性や身体感覚、身体へのとらわれや懸念、など幅広い身体に関連した内容の項目で構成されている。もちろんMMPIの身体に関連する内容の項目がすべて含まれているわけではない。他の身体関連尺度との項目重複としては、第3尺度で20項目、B-tscにおいて23項目と多い (表1)。Lb、Sc3、Si6とは重複項目は少ない。第1尺度は身体への関心が強く心氣的傾向の高い者が高得点を取りやすいが、実際の身体疾患をもつ者はあまり高くはならないとされている。

基礎尺度との関係のみてみると、妥当性尺度のF尺度とK尺度とも.20代の弱い相関係数である (表2)。身体症状に関連する項目で構成されているORG-wig、HEA-wig、B-tsc等がF尺度との相関が比較的強くK尺度には負の相関がみられるのに、第1尺度がそうでないのは、意外な印象ももたれる。第3尺度とは強い相関があり、第4、6、7尺度とは、.40を超える相関がみられる。他の身体関連尺度とは、Si6を除くと、.40近く、あるいは.40以上の相関がみられる (表3)。

### ・第3 (Hy) 尺度 (ヒステリー) Hysteria scale

第3尺度は、60項目からなり、47項目がF回答で採点される。経験的アプローチにより作成された尺度のため、ヒステリーに関連した明瞭項目もあるが、直接的には関係のないわかりにくい内容項目 (隠蔽項目) が多く含まれた構成となっている。身体に関する内容としては、身体の特定位の訴えが比較的多いが、3分の1ほどである。他には、不快感情の否定や否認、生活習慣・態度、趣味興味など様々な内容の項目から構成されている。なお、第1尺度とは20項目、B-tscとは19項目、ORG-wigとは13項目、HEA-wigとは8項目の重複がみられる (表1)。また、他

表1. 身体関連尺度間の重複項目

Scale	To.	1 (Hs)	3 (Hy)	Lb	ORG-wig	HEA-wig	B-tsc	D3	Hy4	Sc3	Si6
1 (Hs)	33	---	20 (60.6%)	4 (12.1%)	15 (45.5%)	13 (39.4%)	23 (69.7%)	8 (24.2%)	12 (36.4%)	4 (12.1%)	1 (3.0%)
3 (Hy)	60	20 (33.3%)	---	8 (13.3%)	13 (21.7%)	8 (13.3%)	19 (31.7%)	6 (10.0%)	17 (28.3%)	3 (5.0%)	0 (0.0%)
Lb	25	4 (16.0%)	8 (32.0%)	---	1 (4.0%)	2 (8.0%)	4 (16.0%)	1 (4.0%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ORG-wig	36	15 (41.7%)	13 (36.1%)	1 (2.8%)	---	0 (0.0%)	13 (36.1%)	3 (8.3%)	12 (33.3%)	10 (27.8%)	3 (8.3%)
HEA-wig	28	13 (46.4%)	8 (28.6%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)	---	14 (50.0%)	7 (25.0%)	3 (10.7%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)
B-tsc	33	23 (69.7%)	19 (57.6%)	4 (12.1%)	13 (39.4%)	14 (42.4%)	---	7 (21.2%)	12 (36.4%)	4 (12.1%)	0 (0.0%)
D3	11	8 (72.7%)	6 (54.5%)	1 (9.1%)	3 (27.3%)	7 (63.6%)	7 (63.6%)	---	1 (9.1%)	0 (0.0%)	1 (9.1%)
Hy4	17	12 (70.6%)	17 (100.0%)	2 (11.8%)	12 (70.6%)	3 (17.6%)	12 (70.6%)	1 (5.9%)	---	3 (17.6%)	0 (0.0%)
Sc3	20	4 (20.0%)	3 (15.0%)	0 (0.0%)	10 (50.0%)	0 (0.0%)	4 (20.0%)	0 (0.0%)	3 (15.0%)	---	4 (20.0%)
Si6	10	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	4 (40.0%)	---

\*To=Total Number of Scoring Key Item/Actual Number &amp; (ratio of duplication items)

表2. 身体関連尺度と基礎尺度との相関

	?	L	F	K	1 (Hs)	2 (D)	3 (Hy)	4 (Pd)	5 (Mf)	6 (Pa)	7 (Pt)	8 (Sc)	9 (Ma)	0 (Si)
1 (Hs)	0.09	0.10	0.25	0.24	---	0.39	0.76	0.40	0.04	0.25	0.41	0.46	0.03	0.04
3 (Hy)	0.06	0.17	0.10	0.39	0.76	0.30	---	0.47	0.00	0.27	0.36	0.39	-0.01	-0.16
Lb	0.01	0.19	-0.05	0.41	0.38	0.07	0.49	0.25	-0.06	0.00	0.10	0.12	-0.11	-0.18
ORG-wig	0.08	-0.06	0.48	-0.43	0.56	0.48	0.31	0.13	0.11	0.31	0.42	0.46	0.20	0.41
HEA-wig	0.07	-0.14	0.41	-0.35	0.63	0.39	0.34	0.24	0.07	0.33	0.39	0.38	0.24	0.29
B-tsc	0.05	-0.14	0.46	-0.40	0.71	0.47	0.45	0.25	0.07	0.39	0.47	0.44	0.24	0.35
D3	-0.01	0.00	0.27	-0.15	0.48	0.48	0.34	0.21	0.07	0.22	0.31	0.28	0.10	0.16
Hy4	0.05	-0.09	0.36	-0.29	0.71	0.34	0.52	0.22	0.04	0.31	0.34	0.37	0.17	0.25
Sc3	0.03	-0.11	0.50	-0.43	0.37	0.29	0.18	0.16	0.11	0.42	0.40	0.59	0.37	0.31
Si6	0.06	-0.18	0.35	-0.34	0.26	0.44	0.10	0.19	0.04	0.34	0.41	0.38	0.03	0.60

表3. 身体関連尺度相互の相関

	1 (Hs)	3 (Hy)	Lb	ORG-wig	HEA-wig	B-tsc	D3	Hy4	Sc3	Si6
1 (Hs)	---	0.76	0.38	0.56	0.63	0.71	0.48	0.71	0.37	0.26
3 (Hy)	0.76	---	0.49	0.31	0.34	0.45	0.34	0.52	0.18	0.10
Lb	0.38	0.49	---	-0.03	0.06	0.09	0.09	0.14	-0.07	-0.04
ORG-wig	0.56	0.31	-0.03	---	0.61	0.77	0.41	0.79	0.75	0.48
HEA-wig	0.63	0.34	0.06	0.61	---	0.81	0.45	0.65	0.54	0.46
B-tsc	0.71	0.45	0.09	0.77	0.81	---	0.56	0.80	0.64	0.45
D3	0.48	0.34	0.09	0.41	0.45	0.56	---	0.37	0.31	0.13
Hy4	0.71	0.52	0.14	0.79	0.65	0.80	0.37	---	0.59	0.36
Sc3	0.37	0.18	-0.07	0.75	0.54	0.64	0.31	0.59	---	0.52
Si6	0.26	0.10	-0.04	0.48	0.46	0.45	0.13	0.36	0.52	---

の尺度との重複項目が少ないLbとも8項目重複がみられる。第3尺度は心理的問題を身体症状に置き換えて安定する転換傾向、抑圧・否認傾向などが強いと高得点となりやすい尺度とされて

いる。

基礎尺度との関係を見ると、妥当性尺度では、F尺度とは相関はなく、K尺度とは.40に近い相関がみられている(表2)。第1尺度との相関は強く、第4尺度とも.40以上の相関がみられる。また、第7,8尺度も.40に近い相関をみせている。

他の身体関連尺度との関係では、第3尺度の下位尺度であるHy4は当然のことながら、Sc3, Si6以外の尺度とは.30以上の相関がみられる(表3)。

## 特殊尺度

### ・Lb(腰痛)尺度 Low-Back Pain scale

Lbは、Hanvik(1951)による経験的手法で作成された尺度であり、代表的な特殊尺度として古くから頻用されている。器質的な病変のある腰痛患者と機能的な腰痛患者の比較によって構成項目が決められた。25項目からなり、20項目がF回答で採点される。大半の項目が隠蔽項目となっている。身体に直接的に絡む内容の項目は5項目(頭痛、動悸、睡眠など)ほどしかない。他の身体関連尺度との重複項目は、Lbと同じく隠蔽項目が多い第3尺度で8項目(32%)あるののぞけば、非常に少ない(表1)。腰痛をはじめとした身体的不調を訴えやすいが不安や不穏などの不安定感あまりもたない者が高得点をとりやすく、身体的不調には心理的要因が大きく働いている可能性が示唆される。また、Ca(頭頂前頭葉損傷)尺度との関係で、身体症状と精神症状の優位性をとらえることにも役立つ尺度とされている。

基礎尺度との関係では、K尺度とは.40以上の正の相関がみられる(表2)。第3尺度との相関が.49で一番高く、第1尺度とは.38となっており、やはり身体に関連した尺度といえよう。第4尺度と.25の相関係数であるが、他の基礎尺度とは相関はなく、また、第1,3尺度を除く身体関連尺度とも相関は見られないと言ってよい(表3)。経験的手法による興味深い独特な尺度といえるだろう。

次に13の尺度から構成されているWiggins内容尺度(Wiggins,1966)のORG-wigならびにHEA-wigと、7つの尺度からなるトライアン・スタイン・チュウのクラスター尺度(Stein,1968)のB-tscの3つの尺度を見ていくが、これらは論理的手法・内的基準によって作成された尺度である。

### ・ORG(器質的症狀)尺度 Organic Symptoms scale (ORG-wigとも表記)

ORG-wigは、MMPIの項目内容を系統的に分類された尺度群、すなわちWiggins内容尺度のひとつの尺度であるが、36項目で構成され、21項目がF回答で採点される。論理的手法で作成されているため、すべて身体に関連した内容であるが、頭痛、嘔吐などの神経症状、協応運動の障害、感覚障害などの器質性の症状と考えられやすい内容の項目となっている。当然ながら、同じ尺度群のHEA-wigとの重複項目はない。D3, Si6, Lbとの重複項目はわずかであるが、他の

身体関連尺度には10以上の重複項目がみられる(表1)。この尺度の高得点は、器質的な疾患の関与も考えられる感覚、運動、身体に関する不調が示唆され、注意、記憶、判断力の低下を感じている場合が多いとされる。

基礎尺度との関係では、妥当性尺度ではF尺度と正の相関、K尺度と負の相関がみられる。臨床尺度では、第1尺度との相関が1番高いが、第3尺度との相関も.30を超えている。しかし、第1尺度と第3尺度と少し異なり、第2尺度との相関が高く、第0尺度との相関も.40を超えている。第7、8尺度との相関も高いといえる。他の身体関連尺度との関係では、Lbを除いて、かなり高い相関がみられる(表3)。

・HEA (不健康) 尺度 Poor Health scale (HEA-wigとも表記)

内的基準で作成されたWiggins内容尺度のひとつであるHEA-wigは、28項目で構成され、18項目がF回答で採点される。身体に関連する項目で構成されているが、ORG-wigと異なり、健康一般に関する懸念、身体的疲弊や苦痛、消化器系の不調、などの項目で構成されている。当然ながらORG-wigとは重複項目はないが、B-tscは14、第1尺度とは13と重複項目が多い(表1)。D3との重複項目は7であるが、D3の項目数の60%を超えている。Sc3とは重複はなく、Si6とは1、Lbとは2と少ない。この尺度の高得点は、身体的な懸念、健康へのとらわれが強いことを示すとされている。

基礎尺度との関連では、F尺度とは正の、K尺度とは負の相関がみられる(表2)。第1尺度との相関が.60を越える高い値となっている。第2、3、6、7、8尺度とも.30を越える相関がみられる。他の身体関連尺度との関係では、B-tscが最も高く、ORG-tsc、Hy4とも強い相関を示しており、Lbを除く他の尺度とも関連は強いようである(表3)。

・B (身体症状) 尺度 Bodily Symptoms scale (B-tscとも表記)

クラスター分析によって作成された7つの尺度からなるTSCの一つの尺度であるB-tscは、33項目で構成され、そのうち17項目がF回答で採点される。論理的手法で作成された尺度であり、項目内容はすべて身体に関連する明瞭項目と言えるが、一般的な健康懸念から胃腸・消化器系の症状から、神経症状まで、身体について多岐にわたる項目で構成されている。他の身体関連尺度との重複項目については、Si6では見られず、Sc3が4、Lbで4と少ない(表1)。第1尺度は23、第3尺度は19と多く、ORG-wigで13、HEA-wigでは14とほぼ同数となっている。この尺度の高得点は、身体への感心や健康への懸念が強い人は高くなりやすく、さまざまな身体症状を見せる者もいる。

基礎尺度との関連では、妥当性尺度ではF尺度と正の、K尺度では負の相関がみられる(表2)。臨床尺度では、第1尺度との相関が明らかに高く、第3尺度とも.40以上の相関がみられる。ORG-wig、HEA-wigと同じく第2尺度とも関係が強い。また、第7、8尺度との相関も.40以上の値を示している。他の身体関連尺度との関係では、Lbを除いて、すべて.40以上の相関がみられる(表3)。特に第1尺度、ORG-wig、HEA-wig、Hy4、Sc3との相関は強い。

## 下位尺度

MMPIの10の臨床尺度が経験的手法で作成されたため、ほとんどの尺度がさまざまな内容の項目(隠蔽項目)で構成されることになった。下位尺度は、その臨床尺度を細かく検討、分析して解釈に活かすために内容的に分けて作成されたものである。すなわち、論理的手法で作られたものである。Harris & Lingoiesは第5尺度と第0尺度を除く狭義の臨床尺度の下位尺度を作成した(しかし第1尺度と第7尺度はほとんど明瞭項目で構成されているため下位尺度は作成されなかった)。Serkownekは、第5尺度と第0尺度の下位尺度を作成している。下位尺度のうち、身体に直接関連する尺度は、D3(身体的不調)尺度、Hy4(身体愁訴)尺度、Sc3(奇妙な感覚経験)尺度、Si6(身体懸念)尺度の4つがあげられる。これらの下位尺度は、Friedman, Webb & Lewak (1989/1999), Greene (1980), Levitt (1989)をはじめ、MMPIの主要なテキストで取り上げられている。

### ・D3(身体的不調)尺度 Physical Malfunctioning scale (D3PMとも表記)

Harris & Lingoiesは60項目からなる第2尺度について5つの下位尺度を作成した。D3は11項目で構成されており、7つがF回答で採点されるようになっている。項目は、すべて身体に関連した内容ではあるが、全般的な身体的不調といえる内容が多く、なぜかしら身体症状の否認の項目も含まれている。他の身体関連尺度との項目重複は、第1尺度、第3尺度、HEA-wig、B-tscが多く、Sc3とは重複項目はなく、Si6、Lbは1項目と少ない(表1)。身体的な不調や懸念が強いと高くなる尺度である。

基礎尺度との関係では、F尺度とは弱い相関がみられる(表2)。1尺度と2尺度に.40を越える相関がみられ、第3尺度と第7尺度が次いで高い値となっている。他の身体関連との関係では、第1尺度、ORG-wig、HEA-wig、B-tscとは.40を越える相関がみられ、LbとSi6とは相関はみられないといえる(表3)。

### ・Hy4(身体愁訴)尺度 Somatic Complaints scale (Hy4SCとも表記)

Harris & Lingoiesによる第3尺度の下位尺度は5つの尺度で構成されるが、Hy4はそのひとつである。第3尺度は上述のように60項目からなるが、Hy4は17項目から構成され、11項目がF回答での採点キーとなっている。構成項目の内容は、すでに第3尺度で述べた身体に関する内容のもので、全般的な身体的不調はほとんどなく、身体の特定期部位についての懸念、訴えが多い。他の身体関連尺度との重複項目としては、第3尺度との重複は当然だが、ORG-wig、B-tsc、第1尺度との重複が多い(表1)。この尺度の高点は、比較的特定された身体的な不調・愁訴がみられ、それは感情的心理的問題を置き換えられた転換反応である可能性も高いと解される。

基礎尺度との関連をみると、第3尺度ではK尺度との相関が.40近くであったのに、Hy4だけでは、逆にF尺度と.30を越える相関がみられる(表2)。臨床尺度では、第3尺度とは当然だが、第1尺度との相関の方が高い値となっている。第2尺度、第6、7、8尺度にも.30以上の相関がみられる。他の身体関連尺度とは、Lbを除いてかなり高い相関がみられている(表3)。B-tsc、

ORG-wigは特に高く、D3, Si6でも.30代の相関を示している。

・Sc3 (奇妙な感覚経験) 尺度 Bizarre Sensory Experiences scale (Sc3BSとも表記)

Harris & Lingoesは、第8尺度を大きく3つ、細分化すると6つの下位尺度を作成した (Sc1A, Sc1B, Sc2A, Sc2B, Sc2C, Sc3)。Sc3は、第8尺度78項目のうち20項目で構成されており、14項目がT (あてはまる) 回答で採点される。なお、身体関連尺度でT回答が採点キーとなる項目数が多いのはこの尺度だけである。身体、身体機能にからむ項目で構成されているが、第8 (shizophrenia) 尺度の下位尺度だけあって、幻覚、妄想につながるようなかなり特殊で奇異な内容の項目が少なくない。しかし、過剰ではあるがさほど病的ではない身体的な感覚過敏、違和感としてとらえられる内容も多い。他の身体関連尺度との重複は、ORG-wigが最も多く10項目であり、HEA-wigとの重複はない。意外にSi6との重複が多いことが目を引く。この尺度の高点は、体感幻覚や離人感などの精神病的体験も示唆されるが、身体への強い過敏さや不安定感としてとらえられる場合も多いだろう。

基礎尺度との関係では、F尺度と正、K尺度と負の相関がみられ、臨床尺度では第8尺度は当然ではあるが、第6, 7尺度、第1尺度と.40を越える相関がみられる (表2)。他の身体関連尺度では、ORG-wig, B-tscとの高い相関がみられる (表3)。HEA-wig, Hy4, Si6とも.50を越える相関がみられる。

・Si6 (身体懸念) 尺度 Physical-somatic Concerns scale (Si6PSとも表記)

Si6は、Serkownekによる第0尺度の下位尺度である。第0尺度は70項目からなっているが、Si6は10項目で構成されており、7項目がF回答で採点される。第0尺度は社会的向性の尺度であり、声や外見など、社会的な関わりに関連する身体的内容と理解出来る項目がある。しかし、社交的関係の嫌悪や熟考傾向、奇妙な体験など直接的には身体に関係ない項目が半数みられる。Physical-somatic Concernsという尺度名になっているが、第0尺度の残った項目を集め、やや無理に命名したような印象はある。そのため、他の身体関連尺度との重複項目は非常に少ない。意外にもSc3の4項目が一番多く、ついでORG-wigの3項目である。

基礎尺度との関連をみると、妥当性尺度では、F尺度とは正、K尺度とは負の相関となっている。臨床尺度では、当然ながら第0尺度とは高い相関がみられ、次いで第2尺度、第8尺度との相関が高い (表2)。身体関連尺度との関連では、重複項目も多いSc3との相関が一番高くなっている。ORG-wig, HEA-wigならびにB-wigとの相関が.40を超えている (表3)。第3尺度とは、相関はないといえよう。

### Ⅲ ひとつの総括と今後の課題

MMPIの身体に関連する10の尺度について、その構成や基礎尺度との関係などを整理してきた。第1尺度と第3尺度は、他の身体関連尺度と何等かの関係がみられ、基礎尺度としてその作

成手順から身体に大きく関連した尺度であり、いずれも独自の多面的な意味合いもった重要な尺度であろう。論理的手法で作成されたORG-wig, HEA-wig, B-tscは、身体的な症状や懸念・とらわれに直接関連した尺度である。下位尺度のD3, Hy4, Sc3, Si6は、それぞれ臨床尺度の身体的側面をとらえているようである。ただし、Si6は身体以外の要因も多いことは留意しておいた方がよいだろう。Lbは、1尺度と3尺度を除いた身体関連尺度とはほとんど関連のない、隠蔽項目が多いかなり独特な、身体に関連した興味深い尺度であるようだ。

この報告では、MMPIの直接的に身体に関連すると考えられる10の尺度を取り上げてまとめてみたが、MMPIには、この10の尺度以外にも身体になんらかのかたちで関連する追加尺度等はまだまだみられる。

性役割や性的問題を扱っている尺度は第5尺度をはじめとしてかなりある。Levitt & Gotts (1995/2012) がとりあげているIndiana論理尺度のI-SP (性的問題) 尺度やPe (小児性愛) 尺度, Wiggins内容尺度のFEM (女性的興味) 尺度, 田中 (1998) のMs (男性性) 尺度, Fm (女性性) 尺度, 下位尺度のMf2 (典型的な女性興味) 尺度, Mf3 (典型的な男性興味の否認) 尺度, Mf4 (異性愛の不快・受動性) 尺度があげられる。

アルコール・薬物依存も身体にも大きく関連するところで、MAC (アルコール嗜癖) 尺度があげられる。解離や自己疎外感も身体感覚に結びつくところが大きく、Indiana論理尺度のI-DS (解離症状) 尺度, 下位尺度のPd4B (自己疎外) 尺度, Sc1B (情緒的疎外) 尺度がある。より間接的にいえば、Pd4A (社会的疎外) 尺度, Sc1A (社会的疎外) 尺度も加えられるだろう。また、心身症にからむ失感情症・アレキシミアについてもKleiger & Kinsman (1980) のAs (アレキシミア) 尺度がある。

追加尺度ではないが、危機項目にも身体にからむものが多く見られる。Friedman, Webb & Lewak (1989/1999) も指摘しているが、危機項目もミニ尺度的に扱うことができる。筆者は、臨床的使用において以前からそのような形でも危機項目を利用し、基礎資料も提供している (井手, 2007; 井手, 2018)。Nicolsの危機項目は26領域と細かく分けられているが、身体にからむ多くの領域で構成されている。健康問題や痛み・不快という全般的なものから、呼吸循環器系、上部消化器系等の特定部位の問題など、17領域は身体と関係するところである。6領域からなるKoss and Butcherの危機項目にはアルコールに絡む領域がある。Lacher and Wrobelの危機項目は11領域で構成されているが、睡眠、薬物乱用、性的逸脱、身体症状の4つの領域がある。これらの結果をミニ尺度 (危機項目尺度) として検討することも、臨床的にも研究的にも有用であると思われる。

ロールシャッハと同様に人間の心理的・精神的側面を幅広く総合的にとらえる臨床心理検査であるMMPIに、多数の身体関連した尺度等があるのは、やはり人間の心というものは身体・体と切り離せないものである証左でもあろう。MMPIは健常者のパーソナリティ研究をはじめとして、知覚、認知、学習、対人態度などの基礎的な心理学研究のパーソナリティ面の資料として

もMMPIは十分に役立つものと思われる。そのような分野での身体にからんだ研究にも活用が望まれる。臨床においては、身体関連尺度について、さまざまな病理群での比較検討は基礎的に必要とされるだろう。また、治療的アプローチの違い、リラクゼーションをはじめとしてマインドフルネスなどの身体をからめた治療アプローチなどによって、どのような変化が身体関連尺度にみられるかを検討するのも興味深いだろう。

以上のような量的研究は勿論重要なものであるが、MMPIはロールシャッハと同じく個人を全体的、総合的にとらえることのできる検査であり、事例・症例研究も基本的に大切なところである。MMPIの臨床使用における経験的印象であるが、特定の身体症状を訴えて転換VやLbの高得点を示しながら力動的な心理療法で改善していくような事例もあれば、身体的な不定愁訴を訴え第1尺度やHEA-wig, B-tscなどの高点がみられる分かりやすい症例もある。また、身体的な問題はほとんど訴えないのに、第3尺度やLbなどの一部の身体関連尺度が高いケースもあれば、ORG-wigやD3, Sc3など身体関連尺度全体が非常に高い値を示すような症例もある。そのようなケースにおいて、治療面接で身体面に焦点をあてても、治療の中心的なテーマにつながる場合もあれば、一時的話題で終わったりほとんど無視されるような場合もある。個々の症例によってさまざまな違いがあるのだろうが、そのようなケースについての総合的で詳細な事例・症例報告を積み上げていくことは臨床的に意味深いものとして望まれるところである。最近、ロールシャッハにおいても、そのようなidiographicな事例研究が軽視されているように思われるが、臨床研究の基盤、核となる事例・症例研究の重要性と必要性は指摘しておきたいところである。

## 文 献

- Hanvik,L.J. (1951) MMPI profiles in patients with low back pain. *Journal of Consulting Psychology*, 15, 350-353.
- Kleiger,J.H & Kinsman,R.A. (1980) The development of an MMPI Alexithymia Scale. *Psychotherapy and Psychosomatics*, 34, 17-24.
- Koss,M.P. & Butcher,J.N. (1973) A comparison of psychiatric patients' self-report with other source of clinical information. *Journal of Research in Pseronality*. 7,225-236.
- Lachar,D. & Wrobel,T.A (1979) Validating clinicians' hunches: Construction of a new MMPI critical item set. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*,47, 277-284.
- Fisher,S. & Cleveland,S.E. (1958) *Body image and personality*. Princeton,Van Nostrand.
- Friedman,A.F., Webb,J.T., & Lewak,R. (1989) *Psychological assessment with the MMPI*. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates. (フリードマン,A.F.・ウェッブ,J.T.・ルヴァク,R. (1999) MMPI新日本版研究会(訳): MMPIによる心理査定 三京房)
- Graham,J.R. (1977) *The MMPI: A Practical Guide*. New York: Oxford University Press.(グレイアム J.R. 田中富士夫(訳) (1985) MMPI 臨床解釈の実際 三京房)
- Greene,R.L. (1980) *The MMPI: an interpretive manual*. New York: Grune & Stratton
- 井手正吾 (2007) 5つのCritical Itemsの検討とその統合の試み MMPI研究・臨床情報交換誌, 17, 14-39.
- 井手正吾 (2018) MMPIの概要・施行・結果処理 野呂浩史・荒川和歌子・井手正吾(編)臨床現場で活かす! よくわかるMMPIハンドブック(基礎編) 金剛出版, 27-66.
- Levitt,E.E. (1989) *The clinical application of MMPI special scales*. Lawrence Erlbaum Associates.

- Levitt,E.E., & Gotts,E.E. (1995) The clinical application of MMPI special scales. 2nd ed. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.(レヴィト,E.E・ゴッツ,E.E. 木場深志(訳) (2012) MMPI追加尺度の臨床的応用 第2版 三京房)
- 村上宣寛・村上千恵子 (2009) MMPI-1/MINI/MINI-124ハンドブック -自動診断システムへの招待- 学芸図書株式会社
- Stein,K.B. (1968) The TSC scales: The outcome of a cluster analysis of the 550 items. In P. McReynolds (Ed), *Advances in Psychological Assessment*. Vol.I. Palo Alto,California. Science and Behavior Books.
- 田中富士夫 (1998). MMPI項目から導いた新しい性度尺度 中京大学文学部紀要, 33(1), 1-12.
- Wiggins,J.S. (1966). Substantive dimensions of self-report in the MMPI item pool. *Psychological Monographs*, 80.22 (Whole No. 630)
- 八尋華那雄・井手正吾・大塚恭子・篠田明美 (1983) ロールシャッハ・テストの身体像境界 scoring system の検討. 中京大学文学部紀要 18.1 : 64-87,

Note of Scales related Physical Matters on the MMPI

Seigo IDE

(いで せいご 札幌学院大学人文学部 臨床心理学科)